（様式１－１）

令和５年度　学校評価報告書

大牟田市立平原小学校

学校教育目標	自ら考え行動し、共に学び、豊かな心をもつ子どもの育成	重点目標	わかる・できる子どもの育成 平原が好きな子どもの育成

評価計画					自己評価		学校関係者評価		改善計画
	重点目標	目標達成のための方策（取組指標）		成果指標	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）
重点目標に関する評価	わかる・できる子ども ～標準学力調査の前年度越えの児童８割～	○ 算数科において、「わかる→わかる」の連続となるよう、「まず量、次に質」の授業を積み重ね、「３つの問題」を解く時間を確保した学習展開を行う。	○	３問以上の問題に取り組むことができる子ども（教師・児童評価 平均 3.2以上） →教師3.6、児童3.8（平均3.7）【達成率116%】	4	○ ４５分の授業の中で３問以上の問題に取り組むことが定着し、多くの問題に挑戦しながら解決する姿が見えてきた。 ○ 学習過程の中で、考える際のツールとして絵や図、表などを活用する力が少しずつ身についてきている。 ○ 少人数授業による個に応じた指導の推進により、「分かった」「できた」と感じている児童が増えた。 △ 成果指標としての標準学力調査の前年度数値越えの「児童8割」は達成できなかったが、学年単位の標準スコアは、４年以外は前年度の数値を越えた。全国平均越えの学級は、Ｒ４は０だったがＲ５は４学級が越えた。	A	・ 分からない子だけでなく、「ほっといていい子」をより伸ばすために、子ども達同士で教え合う時間があってもいいと思う。 ・ 授業中の雰囲気が落ち着いていて良いと思う。理解が遅い児童に対しての少人数学習は継続して欲しい。 ・ ５つの学年が結果を出しているのが素晴らしい。手立てをきちんと打ち、共通実践していることが結果につながっている。 ・ 目標値が高いので、自己評価が「３」になるのは仕方ないと思う。	・ 「わかる」→「わかる」の連続となるよう具体物や絵、図等を活用した授業を推進し、全職員で共通理解・共通実践していく。 ・ 授業形態の工夫とともに、少人数学習の充実を図り、非常勤講師を有効活用していく。 ・ 数多くの問題に挑戦することや、思考ツールを使いながら考える授業を継続し、児童に確かな学力が身につくようにする。 ・ 帯学習における基礎学力の定着に向け、計画的・継続的に取り組んでいく。また、タブレット等のICT機器も有効活用していく。
		○ 算数科において、課題に対する解決のために、具体物や図等と関係づけながら考える時間を設定する。	○	問題を解くときに、絵や図等を使って考える子ども（教師、児童評価 平均 3.2以上） →教師3.2、児童3.2（平均3.2）【達成率100%】	4		A		
		○ 基礎学力の定着のため、平原タイムの充実を図る。学習形態や取組内容（音読、条件作文、計算等）を工夫する。	○	「分かった」「できた」ことが増えたと思う子ども（児童評価 平均3.2以上 ） →児童3.4【達成率106%】	4		A		
		○ 学力向上の取組を、主題研修や日常指導を通して、全職員で共通理解・共通実践していく。	○	標準学力調査の前年度越えの児童８割 →６．９割【達成率86%】	3		B		
	平原が好きな子ども ～学級や学校、地域をよくするためにすべきことを考える　８割～	○ 学級での係活動や、高学年における委員会活動等に積極的に関わることができるよう、話し合い活動や主体的な活動を奨励し、誰かのために働く姿を賞賛していく。	○	自分の仕事に責任を持って取り組む子ども（教師・児童評価3.2以上） →教師3.0、児童3.5（平均3.3）【達成率103%】	4	○ 委員会活動やボランティア活動など、自ら進んで働く姿が多く見られ、人のために働く心地よさを感じる児童が増えてきた。 ○ 各月の生活目標の振り返りをもとに、実態に応じた目標を設定し、「あいさつ」「清掃」を中心とした月目標を意識する児童が増えてきた。 ○ 各行事を通して、地域とのつながりや感謝の気持ちを持つことを実感させることができ、「地域をよくするためにすべきことを考える」は達成率９７％であった。 △ 「自分たちで考えて行動」について、今後も学級活動等での話し合い活動や各行事での主体的な態度の育成をさらに推進していく必要がある。	A	・ 児童の明るい顔を見ると、学校が好きな様子が伝わってくる。地域行事に参加する児童も増えてきていると思う。 ・ 地域とのつながりを大切にされているのが分かる。 ・ あいさつも元気な声でしてくれる児童が増えてきたように思う。やはり元気な挨拶は気持ちがよい。	・ 平原小４実行の中の「あいさつ」「掃除」に重点を置き、各月の目標達成を目指し、見取り→改善のサイクルで推進していく。 ・ 児童の頑張りやよさを実感できるような校内環境の整備を工夫し、自尊感情を高めるようにする。 ・ 地域とのつながりを更に充実させるため、各行事やイベントなどでの、子ども達の活動（招待状やポスターの作成・児童のブースの考案）を計画的に推進していく。 ・ 縦割り活動や異学年交流を通して児童自身で計画・進行する場を重視し、児童の主体的な態度を認めながら推進していく。
		○ 毎月の生活目標において、「あいさつ」を中心とした具体的な月目標の設定と、振り返りの結果に応じた目標設定を行う。	○	月目標を意識して実行できる子ども（教師・児童評価　平均3.2以上） →教師3.0、児童3.4（平均3.2）【達成率100%】	4		A		
		○ 学級や学校、地域をよくするために頑張ることのよさを実感させるため、各行事や地域と連携した活動への参加・参画を奨励し、児童の頑張る姿をMボードや全校朝会で紹介していく。	○	学級や学校、地域をよくするためにすべきことを考える子ども（教師・児童評価 平均3.2以上） →教師2.9、児童3.2（平均3.1）【達成率97%】	4		A		
		○ 縦割り活動や異学年交流による交流活動を実施し、自主的な活動を奨励していく。	○	自分たちで考えて行動ができる子ども（教師・児童評価 平均3.2以上） →教師2.8、児童3.2（平均3.0）【達成率93%】	4		A		
体づくり	進んで体を動かし、チャレンジする子ども	○ 体育の学習や学級での運動（遊び）に目標をもって取り組ませる。	○	目標に向かって取り組める子ども（教師・児童評価 平均3.2以上） →教師3.0、児童3.4（平均3.2）【達成率100%】	4	○ 児童評価が３．４で、進んで体を動かし、チャレンジすることを意識することができた。休み時間も学級遊び等、元気に体を動かす児童が多い。 ○ 各学級で食の大切さを指導し、健康に関する意識が高まり、給食もよく食べており、ほぼ残菜なしである。	A	・ 元気に運動場で遊ぶ子どもが多い。今後も進んで体を動かす児童の育成を推進して欲しい。 ・ 給食時の安全指導の徹底を、今後もお願いしたい。	・ 外遊びの奨励の継続や時期に応じた体力向上タイム（業間走、縄跳び等）により、一人一人の体力の向上を図る。 ・ 自分の命を守るための指導として、交通安全指導、防災学習、不審者対応避難訓練等を適切な時期に実施し、危険な状況時の個々の行動の仕方を身につけさせる。
		○ 命を守る意識と力を高める健康・安全・防災・食育指導に年間を通して取り組む。	○	自他の健康に気をつけ、給食を完食する子ども（教師・児童評価 平均3.2以上） →教師3.8、児童3.6(平均3.7)【達成率116%】	4		A		
いじめ	いじめを生まない集団づくり 早期発見・早期対応	○ 「ありがとうの日」や「感謝の言葉」の取組と可視化の工夫、子ども同士が話し合い解決する力を高める指導を実施する。	○	学校生活アンケート　友達・教師との関係平均1.0以上 →１．１６ （ポイント範囲＋1.5～－1.5）	4	○ 友達との関係1.2、教師との関係1.1で、「感謝の言葉」を書く機会を設けたことが、人間関係づくりの上で有効であった。 ○ 気になる児童を全職員で共通理解し、早期の個別対応を行い、保護者や関係機関とも情報共有し、連携をとりながら対応することができた。	A	・ 「みんなが楽しい学校へ」「みんなで楽しい学校へ」を継続して欲しい。 ・ 認知をもとに、早期発見・早期対応につながっていることは大変すばらしい。	・ 「感謝」の気持ちを持つことを重視し、家族や友達、先生、地域の方々など、感謝の気持ちを表す時間を随時設定していく。 ・ 生徒指導上の気になる事象や配慮を要する児童の早期発見・早期対応のための関係機関との協働体制をさらに充実させる。
		○ 指導、支援が必要な事案について即日対応し、組織的対応と情報共有を徹底する。	○	いじめ未解決案件０件 →いじめ案件に関する未解決事案は０	4		A		
		○ アンケート（保護者、児童）を定期的に実施し、必要に応じて組織的に対応する。							
不登校	不登校の未然防止と早期発見・早期対応	○ 一人一人が活躍する場を設定し、個性を認め合う仲間づくりを行う。	○	学校生活アンケート（登校意欲平均1.0以上）→１．０５ （ポイント範囲＋1.5～－1.5）	4	○ 登校意欲は、1.0以上を継続しており、学校全体や各学級において、行事や活動等における評価の場を設けたことも効果があったと考える。 △ 不登校の要因も複合化しており、一層ＳＣやＳＳＷ、関係機関と連携を取る必要がある。	A	・ 不登校に関しては、家庭環境の影響が大きいところがあるので、地域でも見守っていきたい。 ・ 不登校の減少はなかなか難しい。現状維持はすばらしい。	・ 子どもの状況を全職員で共有し、担任だけでなく全職員で日常的に声かけしていく。 ・ 関係機関と連携をとりながら、ケース会議や保護者対応の応援会議などで情報共有し、対応を考慮していく。
		○ 担任、養護教諭、管理職が連携し、日常的に情報交換していく。	○	不登校傾向、不登校児童の減少　　R4（3名）→R5（3名）	2		A		
		○ 職員間の情報共有をもとにして、関係機関と連携した支援を実施する。							
働き方改革	ワークライフバランスの取れた働き方への意識改革	○ 水曜日以外には原則職員を集めた会議は行わず、学級事務の時間を確保する。	○	定時退校日を実行する職員の向上 （週案等への記載）	3	○ 会議等の時間を工夫したことで、超過勤務の減少を図ることができた。 △ 一人の職員に負担がかからないよう、業務の分担を検討する必要がある。	A	・ 先生方の負担が多すぎる。今回のような資料づくり等も大変なので、何か改善できればと思う。	・ 業務の精選や効率化、各会議の時間短縮等、職員の意見を取り入れながら推進していく。
		○ 諸活動のスリム化や、2部会による役割分担・協働体制づくりを行い、業務の効率化を図る。	○	超過勤務１割減（前年度比較）年間時間外合計（1月終了時）R4（360:51）→R5（363:31）	3		A		

◇　評価について　・【自　己　評　価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）
・【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである

（様式１－２）

令和５年度　学校評価報告書

大牟田市立平原小学校（ＮＯ２）

評価計画						自己評価		学校関係者評価		改善計画
	領域		評価の観点		評価指標（①取組指標または②成果指標）	評価	結果（成果○と課題△）	評価	コメント	次年度における改善策（案）
総括的評価	教育課程 学習指導	○	計画的な教育指導の実施及び評価	○	週指導計画案の提出による量的・質的管理に関する指導助言（毎週）と、教室訪問や各種学力調査等の結果による実施状況の確認（随時）	3	○ 週指導計画は提出が遅れる学級もあったが、管理職が内容を確認し、重点目標の達成に向けたコメントを記載していった。	B	・自己評価は適切である。 ・事前準備など、先生方の負担は大きい。日頃の業務に感謝している。 ・少人数での学習が効果があると思うので、ぜひ一層進めてもらいたい。	・特に算数科において、基礎基本の確実な定着を図るために、学習形態や少人数学習等を充実させ、「わかる」喜びを味わわせ、意欲的に学習に取り組むようにする。
		○	効果的な学習指導の工夫	○	主題研修や授業形態（ＴＴ、少人数授業）の結果として年度末学力調査（算）における前年度越えの児童８０％	3	△ 学年単位の平均値は、ほぼ全学年が昨年度を越えることができたが、前年度越えの児童は約70％で達成はできなかっ	A		
	進路指導	○	小中一貫の９か年を意図した教育の推進	○	校内研究を中心とした、基礎基本の定着を図る授業の実施及び小中連携会議・交流会等の実施（年３回）	4	○ 全クラスで公開授業を実施。小中連携では中学校より出前授業あり。	A	・自己評価は適切である。 ・高学年の中学生との交流の場がもっとあっても良いのではと思う。	・学年に応じて、係や当番活動の意義を考えさせ、自ら働くことに価値を見出せるように、全職員で児童を認める姿勢を大切にしながら指導にあたる。
		○	キャリア教育の充実	○	はたらく意義の理解と個性の伸長のための委員会活動や係活動の充実（随時）	3	○ 委員会や係の当番活動は、ほとんどの子が責任をもって果たすことができた。	A		
	生徒指導	○	基本的な生活習慣の育成	○	平原４実行運動（あいさつ、名札、くつ並べ、黙々清掃）の教師評価３．０以上	3	△ 挨拶に重点を置いた指導を行ってきたが、個人差があり、まだ不十分である。	B	・自己評価は適切である。 ・児童の状況を職員みんなが共有するのは大切である。	・「挨拶」に重点を置き、「自分から」「立ち止まって」等、具体的な目標設定を行い、達成状況を評価しながら徹底を図る。 ・児童理解を一層深めるために、ＳＣの話を聞くなどして、カウンセリングマインドの研修に努める。
		○	児童理解・教育相談の充実	○	教育相談週間の確実な実施（最低学期に1回）	3	○ 生活アンケートやチェックリストを活用し、児童の変化の早期発見に努め、気になる児童については、情報を共有した。	A		
		○	問題行動への組織的な対応	○	管理職・担任を中心とした迅速で的確な対応と職員全体での情報共有（定例月１回及び随時）	4		A		
	保健管理	○	健康教育の充実	○	健康指導・性教育の学年に応じた実施、高学年での薬物乱用防止教室の実施（年１回）	4	○ 年間計画に沿った取組の実施とけがや病気に対する対処法などの指導を実施した。	A	・自己評価は適切である。 ・食育に関しては、今の状態を維持して欲しい。 ・食べ方の指導をお願いしたい。	・学年に応じて、けがや病気の予防、健康な体への自己管理が行えるような指導に努めるとともに、お便り等で保護者への啓発を行う。
		○	学校給食の管理と食育の推進	○	委員会活動を通した日常的な食育の推進と食物アレルギー対応の取組（随時）	4	○ 栄養士を中心に食育の充実に努め、定期のアレルギー会議を実施している。	A		
	安全管理	○	登下校時の安全対策	○	定期的な通学路点検、見守り隊・ＰＴＡとの連携及び非常時のお便りやメール配信による情報提供（随時）	4	○ 毎日の通学路点検及び見守り隊との情報交換を密に行っている。	A	・自己評価は適切である。 ・校門前の道路の車両通行量が多いので心配である。	・保護者や地域と連携して通学路の交通、防犯上の危険個所点検を継続して実施する。 ・「自分の命は自分で守る」を合言葉に、児童が危険回避能力を身に付けるような安全教育の工夫を行う。
		○	施設・設備の安全点検の実施	○	毎月の安全点検の確実（100％）な実施及び危険個所の迅速な修復	3	○ 毎月の安全点検の確実な実施と危険個所等への迅速な対応を行った。	A		
		○	安全教育の実施	○	各種教室(交通安全、防犯)や避難訓練(地震・火災、不審者対応)など計画的な実施（各年１回）	4	○ 年間計画に基づく、避難訓練・交通教室等及び日常的な安全指導を行った。	A		
	特別支援教育	○	特別な支援を要する子のニーズに合った支援の充実	○	保護者の要望を受け入れ、周囲の児童の理解を図りながら行う教育支援（随時）	3	○ 特別支援教育支援員等により、通常学級においても支援の充実を図っている。	A	・自己評価は適切である。 ・家庭へのサポートも学校ができることを行っていると思う。	・通常学級にいる特別に支援を要する子の計画的な指導に努めるとともに家庭との情報共有に努める。 ・各関係機関との連携をさらに継続し、児童や保護者の困り感を少しでも減らすように努める。
		○	指導体制の整備	○	ＳＣ・ＳＳＷ、児童家庭課・児童相談所など関係機関との連携（随時）	4	○ 児童本人や家庭の事情などケースに応じて、各関係機関との連携を図った。	A		
	組織運営	○	校務分掌の機能状況	○	各主任のリーダーシップの発揮と連絡・調整による共通理解・共通実践（２部会の実施（毎月１回））	3	△ 2部会をさらに機能させるため、事前・事後のリーダーとの協議の工夫が必要であ	A	・自己評価は適切である。 ・基礎基本の定着に向けて今後も努力してほしい。	・２部会の活性化を図り、ＰＤＣＡに基づく取組の充実を図る。 ・共通実践として、「わかる・できる子ども」を育てる学級づくりに努める。
		○	学級・学年経営の充実	○	重点目標達成に向けた自己評価表の実施状況の評価・改善（年３回）	3	○ 確かな学力の定着のための基盤となる、落ち着いた学級づくりを推進することが	A		
	研　　修	○	校内研修の充実	○	全担任の授業公開と主題研究の日常化（随時）	4	○ 年間の研修計画に沿って、各種研修会を確実に実施した。	A	・自己評価は上方修正すべきである。 ・研修のフィードバックは時間の確保等難しい面があると思う。各先生方はよく研修している。	・主題研修を中心として、具体的な指導技術の向上に努め、「わかる」→「わかる」の連続となるような授業づくりに努める。 ・不祥事防止研修会の講師を分担し、不祥事に対する自覚の徹底を図る。 ・各研修会への若年層の積極的な参加を奨励し、教職員のスキルアップに努める。
		○	一般研修（危機管理・不祥事防止を含む）の推進	○	一般研修や不祥事防止研修、食物アレルギーなど危機管理に関する研修の計画的な実施（月１回以上）	4	○ 県内の教職員の不祥事を事例に挙げながら、全職員への意識の徹底を図っていった。	A		
		○	キャリアステージに応じた職能研修の充実	○	教育センター等の研修や各種研修会への積極的な参加や論文応募への呼びかけ・支援（随時）	3	△ 経験年数に応じた自己研鑽としての研修への参加は、やや不十分であった。	B		
	教育目標 学校評価	○	教育目標、各教育活動における達成状況	○	教育活動における振り返り（アンケート）の実施と課題の分析（各学期）	4	○ 教育活動についてのアンケートを実施、課題の把握と改善に努めた。	A	・自己評価は適切である。 ・適切に評価を行い、改善を図っていることがわかる。	・自己評価を２部会等で分析するとともに改善策を策定し、短いスパンで取り組み、修正を行う。 ・学校関係者評価委員の方が評価しやすいように一層の数値による提案に努める。
		○	学校評価の実施と改善の状況	○	児童・教師評価を基にした自己評価、学校関係者評価の実施と改善策の策定（各学期）	4	○ 年3回の教師評価及び、それを基にした学校評価を行い、改善に努めた。	A		
	情報提供	○	各種お便りとM-ボード等による積極的な情報の発信	○	各種お便りの配布とMボード（毎日）による学校の取組紹介	4	○ Mボードを毎日掲載し、学校の日々の取組を各家庭に発信できた。	A	・自己評価は適切である。 ・毎日Mボードを配信されていて、すごいと思った。学校の取組をよく発信していて、子どもたちの様子がわかる。	・Mボード、メール配信等で学校の取組や児童の学習状況等を今後も発信する。 ・教育委員会みらい創造室や新聞社等の取材や情報提供に努めて、学校を広く拓くようにする。
		○	各種会合等での学校の取組の紹介	○	民生委員さんの学校訪問やまち協会議での学校の取組紹介（随時）	4	○ 学校の取組について伝える機会を設け、まち協会合ではMボード掲載紙の紹介を行った。	A		
	保護者・地域との連携	○	保護者との連携状況	○	ＰＴＡ活動や懇談会、日常的な連絡による情報交換と子どもの様子の把握（随時）	3	○ 役員を中心に活動していただいているが、今後、さらに輪を広げていくよう工夫	A	・自己評価はである。 ・ＰＴＡの行事に子どもたちは楽しそうに参加していた。 ・地域住民として児童の見守り、行事への参加など続けていきたい。	・ＰＴＡ行事への児童の参加形態を工夫することにより、活動に協力する保護者の広がりも期待できる。 ・SDGsに向けた学習のためにＥＳＤカレンダーの見直しを図り、より一層地域との連携を図る。
		○	地域との連携状況	○	見守り隊、まち協、民児協などとの連携や、地域を交えた行事等への参加（随時）	4	○ 地域の方の協力を得ながら、平原フェスタやどんど焼き等、充実した活動を行うことができた。	A		
	教育環境整備	○	学校施設の整備状況	○	特色ある教育活動実施に向けた校内施設・設備（花壇・畑等）の整備（随時）	3	○ 学級花壇を積極的に活用し、野菜等の収穫の喜びを味わうことができた。	B	・自己評価は上方修正すべきである。 ・花壇等学校の施設は適切に整備されていると思う。 ・学校周りの美化等に協力したい。	・児童の学びの姿や学習成果を掲示するなど学校の特色が見えるような教育環境の整備を行う。 ・より効果的な予算の執行に努める。
		○	教育備品の整備状況	○	計画的な配当予算の執行による、新規備品の購入や修理・修繕の実施（効果的な予算の執行90％以上）	3	○ 購入備品の精選をし、学習の充実が図れるように努め、校内の修繕等を計画的に行った。	B		

◇　評価について　・【自　己　評　価】　４：目標達成（９０％以上）　３：ほぼ達成（７０％～９０％）　２：もう少し（６０％～７０％）　１：できていない（６０％未満）

・【学校関係者評価】　Ａ：自己評価は適切である　Ｂ：自己評価は上方修正すべきである　Ｃ：自己評価は下方修正すべきである